2024年度日本語教育学会春季大会 一般公開プログラム

公益社団法人 日本語教育学会

複言語・複文化主義と日本語教育
―教師養成及び教育実践現場の課題と展望―

2024 年 5 月 25 日（土）10:00～12:00 定員：**1,000 名** ＊事前のお申込は不要です
オンライン(Zoom)開催・参加費無料 ＊視聴方法は 4 月中旬ごろに学会ウェブサイトでご案内します
司会：ランブクピティヤ・ディヌーシャ（久留米大学・日本語教育学会調査研究推進委員会委員）

ヴォロビヨワ・ガリーナ氏　キルギス共和国 元ビシケク国立大学東洋国際関係学部日本語日本文学学科 准教授

専門は漢字教育。私はキルギス国民です。キルギス共和国は80の民族が共存している多言語多文化の国です。国民は、個人の中にも複言語・複文化を持っています。私自身もそうです。ロシア語母語話者で、ドイツ語とキルギス語学習の背景を持ち、46歳で日本語学習をし始め、50歳で日本語教師になりました。漢字に魅せられて、65歳で日本で博士号を取得しました。研究分野は漢字教育ですが、若い教師の養成にも力を入れました。教師養成の課題について話したいと思います。

亀田美保（かめだ みほ）氏　大阪YMCA日本語教育センター センター長

専門は日本語教授法。学生時代、語学留学先の初日の授業で先生のすばらしい笑顔に迎えられ、心が一気にほぐれたのを今も覚えています。教室では、世界各地から来た留学生と拙い言葉で交流しました。留学生に囲まれる先生を見て、居ながらにして世界の人々をつなぐ仕事は何てすてきだろうと日本語教師になりました。以来、私は留学生たちと周りをつなぐ役割を果たそうと努めてきました。それが「複言語・複文化」の形成を促すならうれしいことです。

名嶋義直（なじま よしなお）氏　琉球大学グローバル教育支援機構 教授

研究面では「批判的談話研究」、教育面では「民主的シティズンシップ教育」を行っています。日本社会の多言語化・多文化化は自動的に複言語化・複文化化を意味するものではありません。むしろ分断のリスクを高めるおそれがあります。「異なる人々がゆるやかに結びついた多様性に寛容な社会」を実現するためには、圧倒的多数の「日本人」が民主的シティズンシップを育てることが重要です。そのように考えると、日本語教育・日本語教員の社会的役割が見えてきます。今回はその視点で教師養成について考えてみたいと思います。

李在鎬（り じぇほ）氏　早稲田大学国際学術院 教授

専門は日本語教育・計量言語学・言語評価・ICTを利用した言語教育・テキストマイニング・認知言語学。主な著書は『データ科学×日本語教育』（編著、ひつじ書房。2021年）。本プログラムでは、自然言語処理やデータ科学に基づくアプリケーションが複言語主義に与える影響について考えていきたいと思います。

主催：公益社団法人日本語教育学会　企画：調査研究推進委員会
助成：一般社団法人尚友倶楽部

お問い合わせ：公益社団法人日本語教育学会　https://www.nkg.or.jp/
〒101-0065 東京都千代田区西神田2-4-1 東方学会2F　TEL 03-3262-4291　E-mail: office@nkg.or.jp